

特別史跡西都原古墳群

＝西都原風土記の丘＝



1984

宮崎県教育委員会

は　じ　め　に

西都原の洪積台地上に点在する311基の古墳は、「西都原古墳群」として昭和9年に国の指定を受け、更に昭和27年3月に特別史跡に指定されたものです。

この古墳群は、5世紀から7世紀にかけて築造されたものといわれており、台地のほぼ中央部にある陵墓参考地の男狭穂塚おきほづかと女狭穂塚めさほづかは特に著名で、その周囲に大小の古墳が分布しており、日本最大の古墳群として知られています。

県は昭和40年度から43年度にかけて、古墳群の環境整備や資料館の建設等をおこない、昭和44年4月1日に「風土記の丘」第1号として、全国に先駆けオープンしたものです。

本書はこの「西都原古墳群」に関する手引書として刊行するものですが、文化財を理解し、文化財に親しむ手がかりとして活用いただければ幸いです。

昭和59年9月1日

宮崎県教育委員会

教育長 後 藤 賢三郎

目 次

1. 総説 西都原風土記の丘	1
2. 西都原風土記の丘保存整備事業	8
3. 特別史跡西都原古墳群分布図	11
4. 特別史跡西都原古墳群報告書・出版物等目録	13
(1) 報告書・会報・研究紀要等	13
ア 県及び県関係等の刊行物	13
イ 西都市等の刊行物	19
ウ 宮崎考古学会等の刊行物	20
(2) その他の出版物	23
ア 県内出版又は県内執筆者による出版物	23
イ 県外出版社による出版物	27
(3) 古公文書	38
(4) 古文書	41
5. 特別史跡西都原古墳群出土品目録	42
(1) 宮崎県総合博物館収蔵	42
(2) 西都原資料館収蔵	43
(3) 東京国立博物館収蔵	48
(4) 京都大学考古学研究室収蔵	49

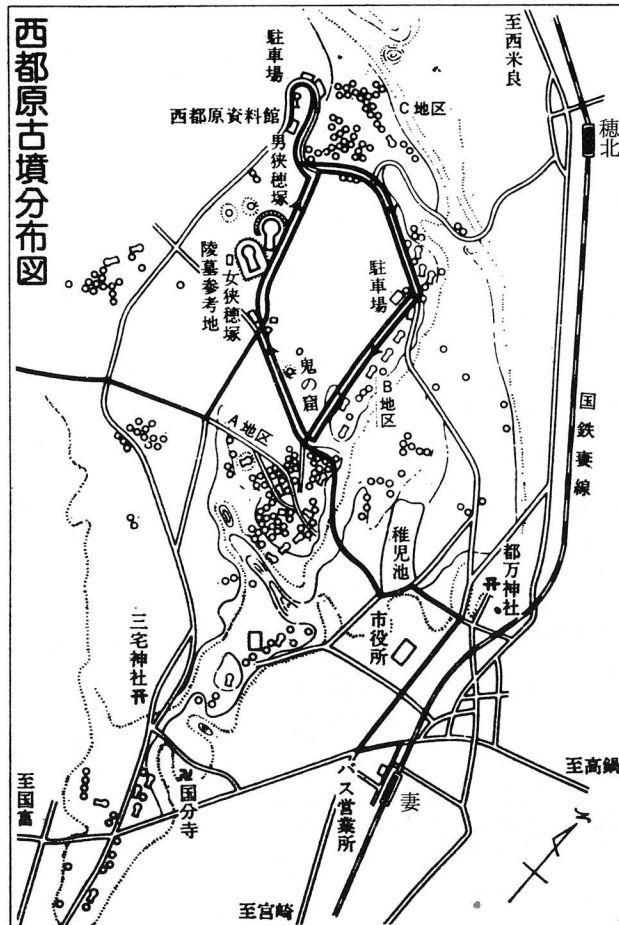
1. 総説 西都原風土記の丘

1 西都原風土記の丘



西都原風土記の丘は、昭和27年に国の特別史跡に指定された「西都原古墳群」を中心に整備されたものである。所在地の西都市は、奈良時代に、国府(推定地)、国分寺、国分尼寺等があった所で日向の国の中心であった。これら国府、国分寺等の後背台地が西都原で、東西約2.6 Km、南北約4.2 Kmのこの台地には前方後円墳32基を含む大小311余基の古墳が密集している。これが西都原古墳

前方後円墳 (46号墳)



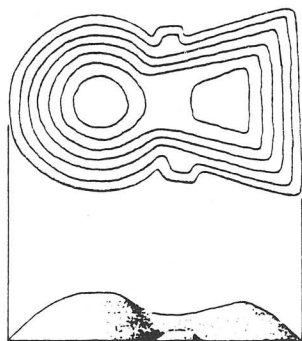
群である。江戸時代の国学者本居宣長はこの地を耶馬台国で有名な魏志倭人伝の中の「投馬」の国に比定している位である。地名の「妻」が「都萬^{つま}」について「投馬^{とうま}」に結びつくからであろう。

この古墳群は、大正元年から6年にかけて、時の県知事有吉忠一が、史跡の保存と顕彰を目的とし、宮内省、帝室博物館、東京帝国大学、京都帝国大学から一流の学者を招き発掘調査を実施している。日本では最初の本格的学術調査であった。この調査の結果、古墳の築造年代は5世紀から6世紀とされた。

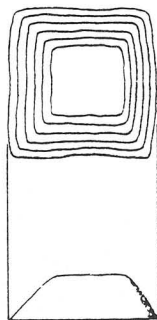
風土記の丘保存整備の第1段階は、史跡の公有化であるが、昭和40年度に着手、昭和42年度に完了している。公有化された面積は約45.3ha、買収費は7,700万円、国の助成は2分の1であった。そして古墳の張芝修景花木の植栽、園路（探勝歩道）の設置等の環境整備事業は昭和41年度から昭和43年度にかけて行われ、事業費は1,400万円であった。

これら風土記の丘保存整備事業は、おおむね次の3地区に分けて整備された。

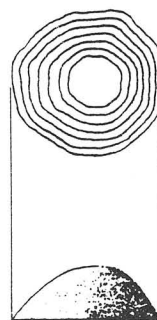
(1) A地区（第1古墳群）



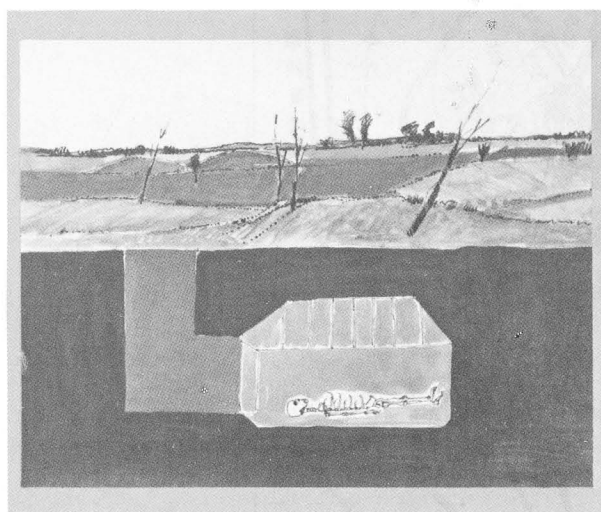
前方後円墳（一本松塚他）



方墳（171号墳）



円墳（鬼の窟墳他）



地下式横穴（地下式4号他）模式図

西都市街地から稚児が池近くの坂道を登りつめた四叉路に「特別史跡西都原古墳群」の記念碑が立っている。この碑より南東の一群がA地区で前方後円墳6基を含んだ約70基の古墳がある。

主要古墳は、一本松塚と呼ばれている72号墳で、全長79m、後円部の径49m、後円部の高さ6.6mの前方後円墳である。この古墳は調査済で、後円部の粘土槨の内部から、鉄剣3本と漢式鏡1面が発見された。

一本松塚の南側に前方部が低く細長いいわゆる柄鏡式の前方後円墳 全長68m、後円部の径38m、高さ7.2mの35号墳があり、こ



特別史跡公園西都原古墳群の碑

このA地区には、民家が三戸あったが古代の景観を再現するため移転して貰い、又電線も地中埋設にしている。

このように西都原が太古の姿に戻るためには、様々な人達の協力を得て成し遂げられたといえよう。

(2) B地区(第2古墳群)

台地の東側縁辺部、記念碑から北にかけての一群がB地区で、約30基の古墳がある。うち10基が前方後円墳で、柄鏡式が多く、大山祇之神の墳墓といわれる古墳もある。

この地区の古墳は1基調査したのみで、他は未調査となっている。

この地区は風土記の丘の中心ともなる地点であるため、全面張芝による休憩広場が造成されると共に、その一角に西都原全体の状況を図示する案内板が設けられている。

資料館に至る道の右手に前方部を南に後円部を北にして横たわる前方後円墳が次から次へと現われてくる様は圧巻である。



芝生広場 — B地区—
(大山祇塚、90号墳)

の古墳からも粘土槌が発見され、直刀、小剣、勾玉、管玉、漢式鏡(方格規矩文鏡)等の出土をみている。

なお、西方に離れて1基、姫塚(202号墳)があるが、形態の素晴らしい前方後円墳(全長50m、後円部の径28m、高さ6m)で、周囲に一重の^{ほり}隍をめぐらしている。

この姫塚からは、後円部と前方部から、刀子、鉄鏃、水晶製切子玉、ガラス製管玉、琥珀製ナツメ玉、須恵器等の豊富な副葬品の出土を見ている。

(3) C地区(第3古墳群)

この地区は、B地区の北にかけての一群で、高取山の東麓の地区である。舟塚(265号)と呼ばれる前方後円墳(全長59m、後円部の径35m、高さ5.5m)の他はすべて円墳で約60基ある。265号墳は穂北平野を見下す風光明媚な場所に築造されており、後円部墳から、直刀、矛、鉄鏃等の武具、漢式鏡、管玉、麻布片等が発見された。

調査済み円墳で豊富な副葬品の出土品を見たのは、156号墳で、直刀、鉄鏃、短剣、矛等の武具、勾玉、ガラス玉、碧玉製管玉、獣形鏡等がある。

ところで、この地区には南九州独得の墓制といわれる地下式横穴がある。地下式横穴はL字型に地下を掘り、奥に家型等の墓室を設けるのであるが、西都原から約10基程発見されている。

中でも有名なのが地下式横穴4号で、111号墳の下にある。昭和31年度突然の陥没により発見されたもので、玄室(墓室)の床面は地表下約2.7m、床面は長方形で幅2.2m、奥行5.5m、高さ1.6m、出土品としては、短甲2領、碧玉製管玉、硬玉製曲玉、ガラス玉、滑石製の小玉、珠文鏡等がある。

この地区は、土地が開けていて散策には絶好の場所で、ことに封土上の栗樹は古代さながらの自然と雰囲気をかもし出している。



円墳群 - C地区 -

2 男狭穂・女狭穂両塚と周辺の古墳

これらの地区の古墳の他に、陵墓参考地として男狭穂塚と女狭穂塚があるが、これは宮内庁が管理している。この古墳は明治29年、陵墓参考地として指定を受けているが、男狭穂塚が瓊々杵尊、女狭穂塚が木花開耶姫の御墓との伝承が古くから残されていたためであろう。

男狭穂塚は、全長219m、後円部の径128m、後円部の高さ18mである。前方部と見られる部分が変則的な形のために円墳、又は帆立貝式などの異論がある。いずれにせよ県下最大の古墳の一つで二重の濠がめぐらされている。

女狭穂塚は、全長174m、後円部の径7m、後円部の高さ13mで、一重の周濠を有する前方後円墳であり男狭穂塚と同様古墳時代中期の築造と推定されている。

この他、記念碑から陵墓参考地に至る途中の鬼の窟墳、(206号墳)陵墓参考地の西側にある飯盛塚(169号墳)等が西都原古墳群にとって顕著な古墳といえる。



鬼の窟(206号墳)

鬼の窟墳は、円墳に土塁をめぐらすという珍しい古墳で、土塁の長さは142m、円墳の高さは6.8mである。又横穴式石室が南側に開口しており、石室内の羨道部は長さ5.4m、玄室は幅2.8m、奥行3.3mで畳敷になおすと6畳敷の広さ、高さは2mである。西都原台地で石室の内部をのぞくことの出来る唯一の古墳である。

飯盛塚は周濠を有する比較的大きい円墳

で、墳丘の低部と高部に二重の埴輪円筒列があり、国の重要文化財に指定された子持家形埴輪、舟形埴輪の破片が発見された古墳である。又後円内部からは、直刀、斧頭、銅鏡、銅釧等が出土し、銅鏡の面上に玉虫の羽が置かれた状態で発見されたのは、当時注目を浴びた。玉虫は法隆寺の玉虫の厨子で知られており、羽の色は古代人の趣向に余程合った色と思われる。

なお、陵墓の南西に一群、寺原地区に一群の古墳がある。

3 西都原資料館

資料館は台地の北西、高取山公園の下、C地区古墳群の西側に位置し、西都原古墳群理解のため役立っている。

建物は鉄筋コンクリート平家造りで、自然の景観を損なわないよう半地下式になっている。又室内は日光の乱反射を利用するなど趣向をこらした設計で、昭和45年に第10回建築業協会賞を受けている。

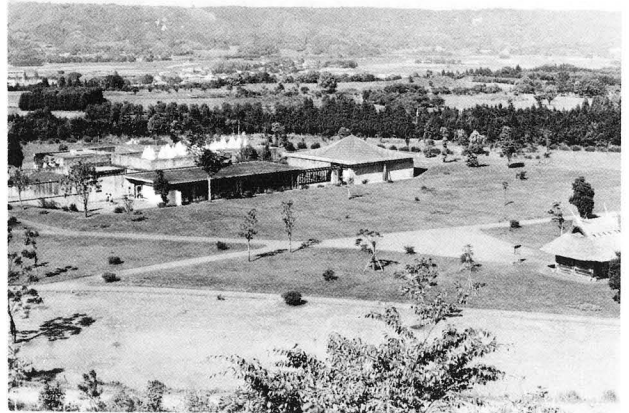
この資料館は、昭和41年度に管理棟と考古資料室、昭和42年度に民俗資料展示室、昭和43年度に収蔵庫と3年がかりで完成されている。

展示室には、西都市にあった元西都原史蹟研究所保管の大正年間の発掘品の一部、その後発見された地下式横穴の出土品、西都市周辺から表面採集された土器、石器等の一括寄託品と本館である県総合博物館から移管された関係資料等、そして西都原に近接する茶臼原、新田原古墳群、百塚原古墳等の出土品をあわせ展示されている。展示品の主なものとして他に類例のない子持家形、舟形の埴輪（複製）地下式横穴出土の短甲、国分寺跡瓦等がある。

民俗資料展示室には、県内ではただ一件、重要有形民俗文化財に指定されている東米良の狩猟用具29

点を初めとし、西都市周辺の西米良村、新富町、佐土原町などの山村生活の民具類が展示されている。

なおこの資料館の近くの復原古代住居は昭和41年度建築されたものであり当時の国立文化財研究所長関野克氏の設計で、4世紀末の家屋文鏡や埴輪を参考にして復原された古墳時代の平家家屋であり、古墳時代の家屋を知る貴重な資料である。



西都原資料館の遠景



復元古代住居

4 西都原古墳群の風致保存

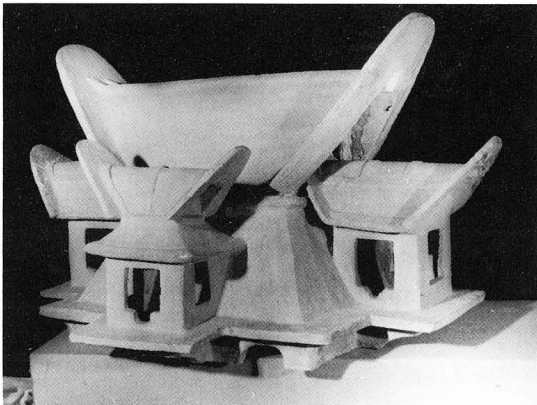
西都原風土記の丘の価値を高からしめているのは、この台地では自然景観を保つため施設園芸ではなく即ち麦、菜種、甘蔗類の作付、それに桑、栗等の栽培が広く行われていることにある。茶畑、桑畑、栗園の間を、春には菜の花、秋にはそばの花が埋め、四季の推移を豊かな色どりによって知ることが出来る。人々がいつ訪ねても深い感銘を受けるのは、こうした自然があるためである。

このような自然景観の維持は、地元の人々の風致保存への深い関心と協力によってなっている。

そして西都原の台地の全体は、県立自然公園としてすっぽり包まれ、その中の古墳の多い地域は特別地域（185ha）に指定されており、更に古墳の密集している風土記の丘区域は、都市公園（歴史公園69ha）ともなっている。このうち61haが特別史跡地区として公有化されている。

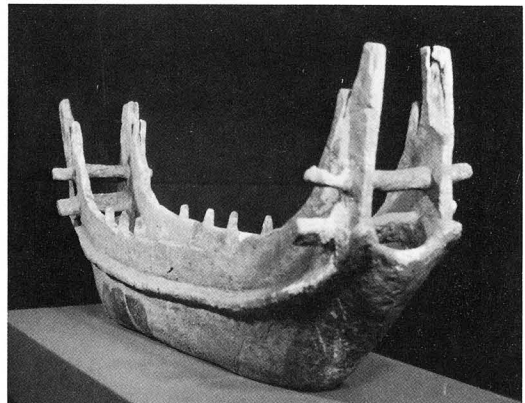


桑畑と古墳（姫塚202号墳）



子持家形埴輪（169号墳出土）

船形埴輪（169号墳出土）



大正元年～大正6年の調査古墳一覽

(西都原古墳調査報告書により作成)

調査年次	調査古墳番号		墳丘	葺石・埴輪 隍等の有無	埋葬遺構・副葬品・出土品
	調査時の番号	現番号			
第一回調査 大正元年12月～大正2年1月 調査員 関保之助・三浦敏・喜田貞吉 黒坂勝美・今西龍・柴田常恵・増田丁信	姫塚 11	202	前方後円墳	周隍	(後円部)須恵器(提瓶4坏9)直刀3、刀子1 鉄鏃、勾玉1、管玉2、切子玉10、小玉、棗玉 (前方部)直刀1、刀子1、蓋坏2組、鉄鏃23
	17	51	円墳	なし	直刀3、鉄鏃10余
	一本松塚 21	72	前方後円形	葺石・塚形	(後円部粘土槨)鉄剣4、鏡1 (前方部粘土槨)鉄剣1、鉄鏃 (後円部礫床)直刀5
	陪塚Ⅰ 25	70	円墳	なし	鉄鏃2
	陪塚Ⅱ 26	71	〃	〃	なし
	陪塚Ⅲ 無	274	〃	〃	鉄剣、鉄鏃、石突
	陪塚Ⅳ 29	73	〃	〃	直刀2、刀子2、鉄鏃、銅釧、鏡1、玉虫翅、 鉄斧2、櫛1、埴輪舟・家・胃
	飯盛塚 110	169	〃	葺石・埴輪・隍	直刀8、短甲、鉄鏃、剣7、頸鎧1、肩鎧1、 埴輪家
	雑掌塚 111	170	〃	埴輪・隍形	埴輪家・鎧
	112	171	方墳	埴輪・葺石	剣5、短甲1
200	207	円墳	なし	なし	
201	205	〃	〃	なし	
第二回 大正2年4月 鳥居龍藏	1	115	円墳(方墳?)	塚形? 葺石	短甲1、直刀1、剣1、鉄鏃、矛
	3	35	前方後円墳	葺石	直刀1、小剣1、勾玉2、管玉21、鏡1
	陪塚	32	円墳	なし	須恵器(埴形4)剣1、鉄鏃、土師器高坏片
	陪塚	36	〃	〃	須恵器(埴形)鉄斧1
	陪塚	無号	〃	〃	刀子1、鉄鏃多数、ガラス玉
	22	57	〃	〃	矛1、鉄鏃束、直刀、剣1、鎗矢2
23	56	前方後円墳	〃	剣4	
第三回 大正3年8月 今西梅原小川 西原末治 龍治	4	84	円墳	葺石	剣1
	無号	27	〃	なし	土師器高坏片
第四回 大正4年7月 原田柴田 淑人常恵	20	2	円墳	葺石	直刀3、刀子1、鉄鏃21、勾玉1、管玉2、小玉18
	60	156	〃	〃	直刀5、剣1、矛首1、鉄鏃多、勾玉1、瑠璃玉38 小玉56、管玉1、管玉片3
	陪塚Ⅰ 55	160	〃	なし	剣1、鉄鏃3
	陪塚Ⅱ 66	159 152	〃 〃	〃 〃	なし なし
第五回 大正5年 今西内藤 虎次郎龍	2	13	前方後円墳	葺石	三神三獸鏡1、勾玉2、管玉40余、小玉100余、 刀子1、鉄残片、木片2
	船塚	265	前方後円墳	葺石	異形乳文鏡1、管玉19、直刀3、刀子2、矛首1 鉄鏃100余、麻布片
第六回 大正6年	無号A塚	80	円墳	なし	須恵器片3
	無号B塚	無号	〃	〃	土師器片

2. 西都原風土記の丘保存整備事業一覧

(1) 所在地 西都市西都原

(2) 史跡の概要

東西約2.6Km、南北約4.2Kmの洪積台地を中心に、5世紀から7世紀にかけて築造された、前方後円墳32基を含む大小311基の古墳が、古代さながらの環境の中に存在することにより、昭和9年5月1日に国指定史跡、昭和27年3月29日に特別史跡に指定されさらに、史跡の公有化、環境整備、資料館建設等が完了した昭和44年4月1日には、西都原風土記の丘としてオープンした。

(3) 事業内容

年 度	内 容	総事業費	主 管 課
4 0	昭40 31,437㎡	千円 77,116	社会教育課
＼	土地買上(44.1%) 41 254,448		
4 2	42 155,102		
4 1	環境整備(標柱設備 植樹・張芝・古墳修復等)	13,829	観 光 課
4 3			
4 1	資料館建設・古代住居復原	57,695	社会教育課
4 3			
4 1	巡回路整備	1,781	観 光 課
4 2	駐車場整備	2,700	〃
	事務費等	10,889	
計	国費 58,064千円 県費 105,946千円	164,010	

● 修復古墳

A 地区 17 基
 C 地区 38 基
 計 55 基

(内訳)

A 地区(号)	6.	7.	8.	14.	15.	16.	18.	20.	21.	22.
	23.	25.	30.	31.	40.	79.	202.			
C 地区(号)	111.	112.	113.	114.	115.	119.	120.	121.	122.	127.
	128.	129.	132.	133.	134.	136.	137.	138.	145.	146.
	150.	152.	153.	162.	163.	164.	165.	166.	261.	262.
	263.	264.	266.	275.	277.	無	無	無		

(4) 関係機関

ア 西都原協議会 事務局 西都市商工観光課 昭和45年2月13日発足
 構成メンバー

県(環境保全課・西都土木事務所) 県教育委員会(文化課)

市(商工観光課・土木課) 市教育委員会(社会教育課)

その他(西都原を守る会代表)

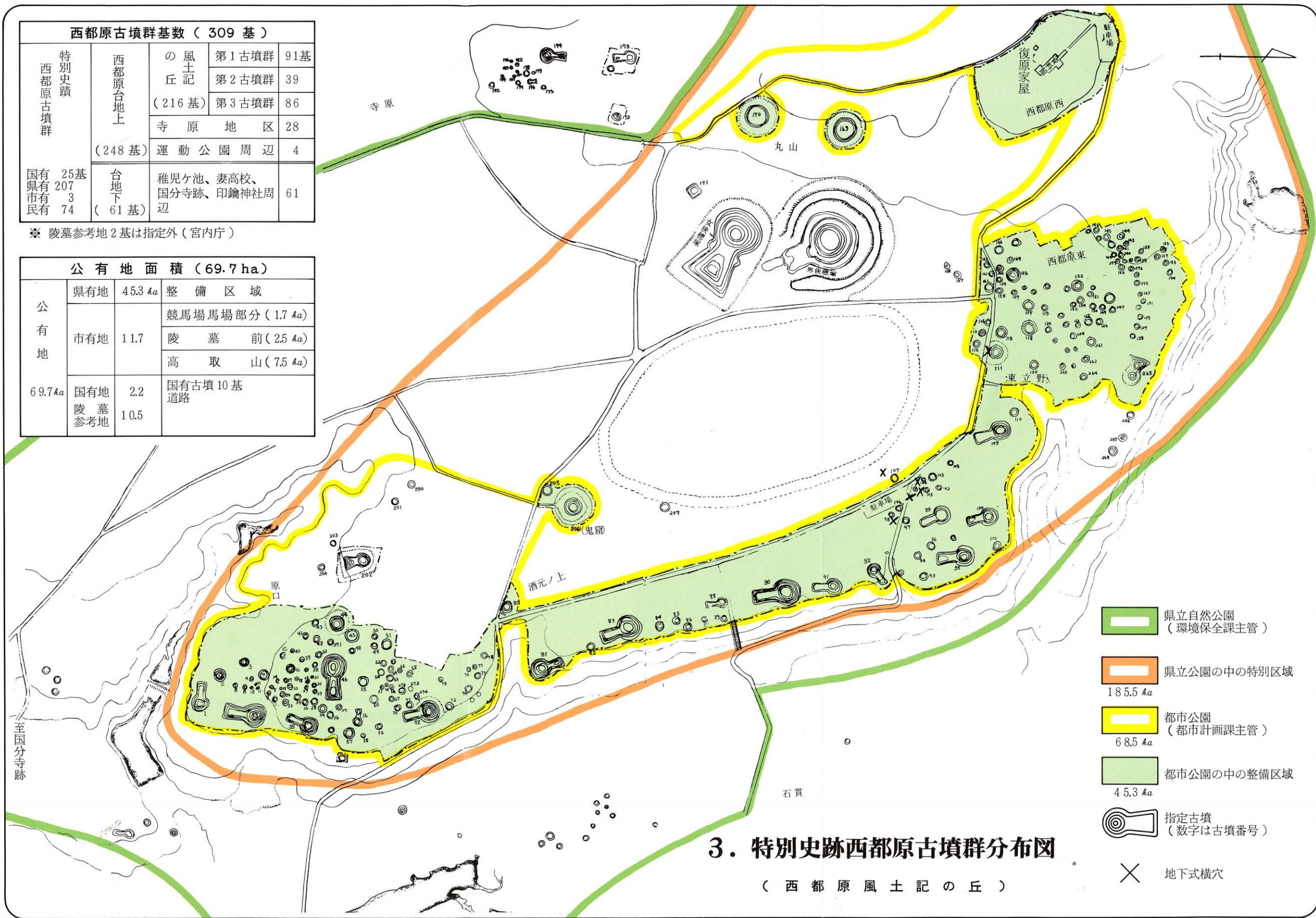
(5) 維持管理

県公園協会(職員数5)に委託

西都原古墳群基数 (309基)			
特別史跡 西都原古墳群	西都原台地上 (248基)	の風土記	第1古墳群 91基
			第2古墳群 39
			第3古墳群 86
		寺原地区 28	
	運動公園周辺 4		
国有 25基 県有 207 市有 3 民有 74	台地下 (61基)	稚児ヶ池、妻高校、 国分寺跡、印鑰神社周 辺	61

※ 陵墓参考地2基は指定外(宮内庁)

公有地面積 (69.7ha)			
公有地	県有地	45.3 ha	整備区域
	市有地	11.7	競馬場馬場部分 (1.7 ha)
			陵墓前 (2.5 ha)
69.7 ha	国有地	2.2	国有古墳10基 道路
	陵墓参考地	10.5	



3. 特別史跡西都原古墳群分布図
(西都原風土記の丘)

- 県立自然公園
(環境保全課主管)
- 県立公園の中の特別区域
185.5 ha
- 都市公園
(都市計画課主管)
68.5 ha
- 都市公園の中の整備区域
45.3 ha
- 指定古墳
(数字は古墳番号)
- X 地下式横穴

4. 特別史跡西都原古墳群報告書・出版物等目録

(1) 報告書・会報・研究紀要等

ア 県及び県関係等の刊行物

1 書名	宮崎県児湯郡 西都原古墳調査報告	1. 総説（大正元年12月25日～2年1月6日）
2 著者	坂口 昂 他	2. 調査記録（調査経過）
3 発行社	宮崎県	3. 調査報告 21（一本松塚）、110（事勝塚）、11（姫塚） 201、200、112、111（雑掌塚）、26、25、29、無号、17、 210号の各墳
4 発行年	大正4年	4. 調査員 東大（黒板勝美、今西龍、柴田常恵） 京大（坂口昂、浜田耕作、喜田貞吉） 帝室博物館（関保之助） 宮内省（増田千信）
5 ページ数	A5版 109ページ（旧版本）	※以上大正元年と2年の調査記録である。

1 書名	宮崎県大観	図録の部に鬼の窟、男狭穂塚、女狭穂塚、3号墳（現35号墳）の写真が収録されている。
2 著者	宮 武 喜三太 編	また、史蹟及び名勝の部には男狭穂塚、女狭穂塚、姫塚、鬼の窟が紹介されている。
3 発行社	宮崎県大観編集部	
4 発行年	大正4年	
5 ページ数		

1 書名	攀轅餘情	西都原古墳群の発掘調査を提唱した有吉忠一知事の送別に因んで編集されたもので、各界代表の送別の辞、あるいは送別会の様子、有吉一家の離県の様子等を集録している。
2 著者	宮崎有吉前知事送別会編	
3 発行社	宮崎有吉前知事送別会編	
4 発行年	大正5年	
5 ページ数	134ページ	

1 書名	宮崎県西都原古墳調査報告書	1. 船塚 外形、調査の経過、遺物の研究、発掘の結果
2 著者	浜田耕作、梅原末治	2. 無号A塚 鬼の窟の東南270m
3 発行社		3. 無号B塚 西都原の東南部
4 発行年	大正6年	以上、3基の発掘調査報告である。
5 ページ数	18ページ(旧版本)	

1 書名	宮崎県史跡調査報告	1. 凶版 西都原60、55、20、2号墳
2 著者	鳥居龍蔵、小川琢治、原田淑人、柴田常恵、内藤虎次郎、今西龍	2. 日向古墳調査報告書(鳥居龍蔵)大正2年 第4. 古墳の状態と其遺物 祭土原(31~38頁)、3、22、23号墳
3 発行社	宮崎県内務部	3. 西都原古墳調査報告(原田淑人、柴田常恵)大正4年 60、66号墳他
4 発行年	大正7年	4. 西都原古墳調査報告(内藤虎次郎、今西龍)大正5年、2号墳 以上の収録である。
5 ページ数	72ページ(旧版本)	

1 書名	宮崎県古墳台帳	西都原古墳群は、児湯郡下穂北之部の中に所有地、形式、高さ、周囲、基底部の長さの区分を設け、記載されている。
2 著者	宮崎県内務部	
3 発行社	宮崎県内務部	
4 発行年	大正7年	
5 ページ数	33ページ	

1 書名	第二回 第三回 延岡附近古墳調査	延岡で行われた鳥居龍蔵の講演内容を集録したものである。この中で博士が西都原古墳群の発掘調査に参加するようになった由縁について述べている。
2 著者	東臼杵郡史蹟調査会	
3 発行社	〃	
4 発行年	大正15年	
5 ページ数		

-
- | | | |
|--------|------------|--------------------------------------|
| 1 書名 | 西都原史跡調査報告書 | 1. 西都原古墳調査報告(89頁) |
| 2 著者 | 宮崎県編 | 2. 宮崎県西都原古墳調査報告書(8頁) |
| 3 発行社 | 宮崎県 | 3. 宮崎県史跡調査報告(69頁) |
| 4 発行年 | 大正15年 | 大正4年、大正6年、大正7年に刊行された報告書を合本再版したものである。 |
| 5 ページ数 | A5版 166ページ | |

-
- | | | |
|--------|----------|---|
| 1 書名 | 日向纂記 | 「日向神国附国中二山陵多キ事」の条に「穂北郷三宅村西都原ノ二山陵……」で始まり、男狭穂塚・女狭穂塚・鬼の窟の説明がされている。 |
| 2 著者 | 平部 嶠 南 | |
| 3 発行社 | 南那珂郡教育会 | |
| 4 発行年 | 昭和2年(再版) | |
| 5 ページ数 | | |

-
- | | | |
|--------|----------|------------------------|
| 1 書名 | 西都原古墳頒布図 | 表 西都ヶ原附近古墳分布図(1/6,000) |
| 2 著者 | 宮崎県 | (1号~249号) |
| 3 発行社 | 宮崎県 | 裏 |
| 4 発行年 | 昭和3年 | 1. 西都原古墳における形式別古墳数 |
| 5 ページ数 | | 2. 付近の史跡 |
| | | 3. 代表的古墳とその出土品 |
| | | (男狭穂、女狭穂塚 他26基) |

-
- | | | |
|--------|----------------------|--|
| 1 書名 | 宮崎県史蹟調査 第5輯
児湯郡之部 | 西都原古墳群の標題をかかげ、地名由来や地理環境を述べ、鬼の窟と大正年間発掘した古墳の一部とその出土品を紹介している。 |
| 2 著者 | 宮崎県内務部 | なお、全景、鬼の窟、出土品の写真が付録されている。 |
| 3 発行社 | 宮崎県内務部 | |
| 4 発行年 | 昭和6年 | |
| 5 ページ数 | 253ページ | |

-
- | | | |
|--------|-------------|---|
| 1 書名 | 日向古跡誌附陵墓写 * | 日向古跡誌1巻から6巻までの合本印刷で巻5 児湯郡三宅村の項に二山陵、事勝塚、雑掌塚、飯盛塚、姫塚、船塚他15基の大きさ、形体、伝説、位置関係など(135～140頁)が収録されているが、日向地誌の内容と同じである。 |
| 2 著者 | 平部 嶮南 | |
| 3 発行社 | 宮崎県 | |
| 4 発行年 | 昭和7年 | |
| 5 ページ数 | A5版 302ページ | |

-
- | | | |
|--------|---------|--------------------------------|
| 1 書名 | 西都原古墳群図 | 西都原古墳群の分布図 |
| 2 著者 | 原田 仁 | 原田仁が昭和11年測量を実施、同12年製図されたものである。 |
| 3 発行社 | | 縮尺 5,000分の1
(梅原末治氏旧蔵) |
| 4 発行年 | 昭和12年製図 | |
| 5 ページ数 | | |

-
- | | | |
|--------|------------|---------------------------------|
| 1 書名 | 聖地古日向 | 日薩隅の古代遺跡の項に西都原古墳群(124～126頁)として、 |
| 2 著者 | 鉄道省編 | 1. 古墳群の概要 |
| 3 発行社 | 博物館 | 2. 大正の発掘 |
| 4 発行年 | 昭和15年 | 3. 男狹穂塚、女狹穂塚、鬼の窟古墳
の記述がある。 |
| 5 ページ数 | B6版 220ページ | |

-
- | | | |
|--------|------------|--|
| 1 書名 | 日向文化史 | 第二章 先史時代 第一節 考古学と日本人論
(西都原古墳発掘)(28～29頁) |
| 2 著者 | 日高重孝 | 第三章 原史時代 |
| 3 発行社 | 県社会教育課 | 第一節 遺跡遺物の概況(43～52頁) |
| 4 発行年 | 昭和25年 | 第二節 日向古墳の分布と特徴(52～64頁) |
| 5 ページ数 | B5版 178ページ | 以上、第二章と第三章に西都原古墳についての記述がある。 |

-
- | | | |
|--------|---------------|--|
| 1 書名 | 日向遺跡調査報告(第1輯) | 第2部に1.宮崎県古墳調査の沿革(大正元年~13年にわたる西都原古墳調査) 2.日向古墳地名表(妻町 1~280号)としての記載がある。 |
| 2 著者 | 瀬之口 伝九郎 他 | |
| 3 発行社 | 宮崎県教育委員会 | |
| 4 発行年 | 昭和27年 | |
| 5 ページ数 | B5版 116ページ | |

-
- | | | |
|--------|-------------|--|
| 1 書名 | 宮崎県埋蔵文化財地名表 | 西都市大字三宅及び右松に所在する古墳(1~240号)が地名表にあがっている。 |
| 2 著者 | 宮崎県教育委員会 | |
| 3 発行社 | 宮崎県教育委員会 | |
| 4 発行年 | 昭和40年 | |
| 5 ページ数 | B5版 58ページ | |

-
- | | | |
|--------|-------------------------------|--|
| 1 書名 | 宮崎県総合博物館研究紀要 No.2
地下式横穴と墳丘 | 西都原東立野無号墳、同102号墳、同111号墳等の墳裾下に構築されている地下式横穴とその上にある封土墳との関係についての論述である。 |
| 2 著者 | 田中 茂 | |
| 3 発行社 | 宮崎県総合博物館 | |
| 4 発行年 | 昭和49年 | |
| 5 ページ数 | 85ページ | |

-
- | | | |
|--------|------------|---|
| 1 書名 | 日向の伝説と史蹟 | 日向の聖地伝説と史蹟(昭和9年)の復刻版で御陵墓参考地、男狭穂塚、女狭穂塚、西都ノ原古墳群(127~129頁)及び古墳の形式別基数他についての記述がある。 |
| 2 著者 | 宮崎県編 | |
| 3 発行社 | 歴史図書社 | |
| 4 発行年 | 昭和53年 | |
| 5 ページ数 | A5版 182ページ | |

1 書名	西都原古墳群研究資料*	西都原古墳群(327基)を1~10群に分け、主要古墳、発掘済み古墳については、写真、実測図等を付し解説している。
2 著者	田中熊男	第1群(1、13、17、2、70、35、56、72、207、202、鬼の窟)
3 発行社	宮大考古学資料室	第2群(81、83、88、90、91、92、95、99、100)
4 発行年	昭和53年	第3群(156)
5 ページ数	B5版 62ページ	第4群(265)
		第5群(男狭穂塚、女狭穂塚、169、170、171)
		第6群(173、174)
		第7群(190)
		第8群(212、216)
		第9群(225、226、227、237、239)
		第10群
		()内の数字は古墳番号

1 書名	日向の古墳展(図録) —地下式横穴の謎をさぐる—	・西都原古墳群および出土品の紹介と
2 著者	宮崎県総合博物館	・「九州古墳文化の地域性」について論考—小田富士雄
3 発行社	宮崎県総合博物館	・「地下式横穴の甲冑と大和政権」の論考—小林謙一
4 発行年	昭和54年	以上2氏の論考の掲載がなされている。
5 ページ数	132ページ	

1 書名	宮崎県史跡調査1~8輯	宮崎県史蹟調査報告第4輯(児湯郡之部)
2 著者	宮崎県内務部編	大正14年発行(253頁)の復刻版で、西都原古墳群(43~54頁)については、
3 発行社	西日本図書館コンサルタント協会	大正の発掘概況
4 発行年	昭和55年(復刻本)	古墳形成、築成年代
5 ページ数	A5版	出土遺物(姫塚、110号、21号、111号墳) 西都原附近採取遺物写真(9枚) に分けての記載である。

1 書名	宮崎県地方史研究紀要9 有吉忠一知事と西都原古墳発掘調査	有吉忠一知事が西都原古墳群発掘を提唱した意図とその背景及び発掘調査に至るまでの経緯、発掘中止等について記述されている。
2 著者	田中茂	
3 発行社	宮崎県立図書館	
4 発行年	昭和58年	
5 ページ数		

イ 西都市等の刊行物

-
- | | | |
|--------|------------|------------------------|
| 1 書名 | 児湯郡郷土誌 | 第14章 名勝旧蹟（200～209頁）の項に |
| 2 著者 | 児湯郡教育会 | 13 史蹟研究所 |
| 3 発行社 | 児湯郡教育会 | 22 西都原 |
| 4 発行年 | 大正14年 | 23 男狭穂塚、女狭穂塚 |
| 5 ページ数 | B5版 395ページ | 24 鬼の窟 |
| | | 26 事勝塚 |
| | | 以上の記述がある。 |

-
- | | | |
|--------|------------|---|
| 1 書名 | 古墳群西都原 | 西都原古墳群の大正発掘調査内容の紹介と西都原付近の伝承について集録がなされている。 |
| 2 著者 | 久保平一郎 | |
| 3 発行社 | 児湯郡西部地方奉賛会 | |
| 4 発行年 | 昭和9年 | |
| 5 ページ数 | 74ページ | |

-
- | | | |
|--------|------------|--------------------------------------|
| 1 書名 | 西都原の古墳 | 1. 西都原古墳群の特色、外形上の類別と分布、成立の年代 |
| 2 著者 | 日高正晴 | 2. 特色ある古墳の解説
男狭穂塚、女狭穂塚、169号墳、鬼の窟墳 |
| 3 発行社 | 西都市教育委員会 | 3. 大正初年の発掘調査 |
| 4 発行年 | （再々版）昭和46年 | 以上3項目について詳細な記述がある。 |
| 5 ページ数 | A5版 50ページ | |

-
- | | | |
|--------|-----------|----------------------|
| 1 書名 | 西都の歴史 | ●西都原古墳群の地理的位置と保存について |
| 2 著者 | 日高次吉、日高正晴 | ●西都原の由緒 |
| 3 発行社 | 西都市 | ●古墳の種類と分布 |
| 4 発行年 | 昭和51年 | ●著名な古墳 |
| 5 ページ数 | 448ページ | ●特色ある出土品 |
| | | ●大正初年の発掘調査 |
| | | ●古墳群成立の年代 |
| | | 以上についてくわしい説明がなされている。 |

-
- | | | |
|--------|------------------------|--|
| 1 書名 | (復刻本)
宮崎県西都原古墳調査報告書 | 宮崎県が発行した大正4年、大正6年、大正7年の3冊を復刻合本したものである。 |
| 2 著者 | 宮崎県 | なお、斎藤忠の解説が掲載されている。 |
| 3 発行社 | 西都市教育委員会 | |
| 4 発行年 | 昭和58年 | |
| 5 ページ数 | 本文72、解説35ページ | |

ウ 宮崎考古学会等の刊行物

-
- | | | |
|--------|----------------------------------|---|
| 1 書名 | 考古学雑誌6巻2号
「西都原古墳調査 附百塚原古墳出土品」 | 60号墳(現156号)、55号墳(160号)、陪塚2(159号)66号墳(152号)の概報とその後国宝に指定された百塚原出土の金銅馬具類について記述してある。 |
| 2 著者 | 原田淑人 | |
| 3 発行社 | 日本考古学会 | |
| 4 発行年 | 大正4年 | |
| 5 ページ数 | 72ページ | |

-
- | | | |
|--------|------------------------------|--|
| 1 書名 | 日本古文化研究所報告第10号
(西都原古墳の調査) | 昭和11年の浜田耕作、原田仁の実測調査結果を公にしたもので、男狭穂塚、女狭穂塚以下主要な古墳の実測図が集録されている。 |
| 2 著者 | 黒板勝美他 | なお、解説書では久保平一郎が西都原古墳群の概況について述べており、また、実測図古墳の解説のほか当時の古墳の遠景写真も掲載されている。 |
| 3 発行社 | 日本古文化研究所 | |
| 4 発行年 | 昭和15年 | |
| 5 ページ数 | | |

-
- | | | |
|--------|-----------|---|
| 1 書名 | 日向史学 | 復刊第1号で野田敏夫の東京国立博物館所蔵宮崎県出土考古遺物地名表(32~35頁)が収録されており、古墳の項に宇三宅西都原の埴輪の7点とその他の収蔵品の記載がある。 |
| 2 著者 | 日向史学研究会編 | |
| 3 発行社 | | |
| 4 発行年 | 昭和34年 | |
| 5 ページ数 | A5版 36ページ | |

1 書名	宮崎考古学会第1回研究発表会 発表要旨	西都原古墳群調査古墳の再確認というテーマで発表している。要旨によると古墳番号が旧番号と新番号があるのでいささか混乱が起っている、それを整理することと、調査古墳の数が不統一であるので併せて整理したいとある。
2 著者	宮崎考古学会編	なお、調査古墳の一覧表が付してある。
3 発行社	宮崎考古学会	(発表者 茂山護)
4 発行年	昭和47年	
5 ページ数	10ページ	
1 書名	宮崎考古1 「東立野の地下式9号墳」	西都原古墳群102号墳と同105号墳との間にある小円墳の南東側墳裾が陥没発見、調査したときの報告文である。
2 著者	日高正晴、茂山護	
3 発行社	宮崎考古学会	
4 発行年	昭和50年	
5 ページ数	14ページ	
1 書名	古文化談叢6 宮崎県内出土の須恵器	一 地下式横穴・高塚古墳出土例を中心として一 鬼の窟古墳および西都原地下式横穴2号、同3号、同9号出土等の須恵器について特色を述べ、編年を試みている。
2 著者	福尾正彦	
3 発行社	九州古文化研究会	
4 発行年	昭和54年	
5 ページ数		
1 書名	古文化談叢7 日向中央部における地下式横穴とその社会	地下式横穴と高塚古墳とを比較検討しながらこれらを残した人々の社会的背景を究明を試みている。特に西都原古墳群については、編年について注目する論述がある。
2 著者	福尾正彦	
3 発行社	九州古文化研究会	
4 発行年	昭和55年	
5 ページ数		

1 書名	考古学研究30巻2号。 「陵墓参考地について」	陵墓参考地になっている男・女狭穂両塚のうち、従来から墳形に疑問のある男狭穂塚の墳形確認のため、墳丘立入調査は必須であることを述べている。
2 著者	今井 亮	
3 発行社	考古学研究会	
4 発行年	昭和58年	
5 ページ数	132ページ	

1 書名	遺跡整備資料Ⅱ 古墳、墳墓	全国の古墳・墳墓について環境整備の状況についてとりまとめたものである。22～23頁に西都原古墳群が風土記の丘として分布図、写真とともに紹介されている。
2 著者	奈良国立文化財研究所	
3 発行社	奈良国立文化財研究所	
4 発行年	昭和58年	
5 ページ数	90ページ	

1 書名	考古学雑誌43巻4号 「日向地方の地下式墳」	西都原発見の地下式横穴を封土墳111号墳裾に構築された4号を中心に記述し、西都原の地下式横穴の編年について論考している。
2 著者	日高正晴	
3 発行社	日本考古学会	
4 発行年		
5 ページ数		

1 書名	月刊文化財 「西都原古墳群の環境整備」	「風土記の丘建設第一号」のサブタイトルのもとに、風土記の丘の趣旨、西都原古墳群の説明、整備計画の実際についての説明がなされている。
2 著者	岡田茂弘	
3 発行社	第一法規	
4 発行年		
5 ページ数		

(2) その他の出版物

ア 県内出版又は県内執筆者による出版物

1 書名	日向郷土志資料 7 「西都原古墳群地下式横穴の 遺物配列状態」	地下式横穴の調査内容（轡鏡板のほか、須恵器、土師器が出土）について記述している。
2 著者	日野 巖	
3 発行社	文華堂	
4 発行年	昭和3年	
5 ページ数		

1 書名	日向	佐土原及び西都原の特輯で西都原の古墳（152～156頁 杉田義一）の項に
2 著者	日向郷土会編	1. 西都原古墳の形式分類 2. 男狭穂塚・女狭穂塚・鬼の窟・方墳についての詳述 3. 他地域古墳との比較考察 がなされている。
3 発行社	文華堂	
4 発行年	昭和13年	
5 ページ数	A5版 195ページ	

1 書名	日向今昔物語（増補）	大正の発掘調査でこの古墳群が古墳築造最盛期以後のものであろうと結論されているが、それはわずか20数基（実は30基）で300余基中の一小部に過ぎない。これで結論することは正論とは申されないと述べ、残された古墳の中にはまだ上代のものが存在するのではないかと述べている。
2 著者	日高重孝	
3 発行社	橘百貨店出版部	
4 発行年	昭和35年	
5 ページ数	58ページ	

1 書名	郷土のあゆみ	古墳時代の郷土の項に西都原古墳(24~28頁)を取りあげ、古墳についての概要と舟型はにわ、家型はにわについての記述を行っている。
2 著者	一政 祐英	
3 発行社	南日本教育図書会	
4 発行年	昭和37年	
5 ページ数	B5版 112ページ	

1 書名	日向路	「壮大な西都原古墳群」の見出しがあり、西都原古墳群の特色の説明、子持家形はにわ、船形はにわの紹介。日向古墳と帝紀旧辞との関係等についての記述がなされている。
2 著者	柳 宏吉、平田正一	
3 発行社	講談社	
4 発行年	昭和43年	
5 ページ数	156ページ	

1 書名	宮崎県の考古学	1. 特色ある古墳及び調査済み古墳の解説 男狭穂塚、女狭穂塚、鬼の窟古墳、11、17、21、110、200、201、3、22、23、1、4、60、20、2、112号墳 地下式横穴1~4号
2 著者	石川 恒太郎	2. 主要遺跡地名表 古墳 大字三宅、童子丸、右松、妻所在
3 発行社	吉川弘文館	以上の記述がなされている。
4 発行年	昭和43年	
5 ページ数	A5版 393ページ	

1 書名	地下式古墳の研究	西都原地下式古墳1~4号墳について詳述されている。
2 著者	石川 恒太郎	
3 発行社	帝国地方行政学会	
4 発行年	昭和48年	
5 ページ数	A5版 270ページ	

-
- | | | |
|--------|--------------|---|
| 1 書名 | 日向地誌 | 復刻版で三宅村の項に二山陵・事勝塚・雑掌塚・鬼ノ窟・姫塚・船塚他15基の大きさ・形体・伝説位置関係などが記述してある。 |
| 2 著者 | 平部 嶺 南 | |
| 3 発行社 | 新潮社 | |
| 4 発行年 | 昭和51年 | |
| 5 ページ数 | A5版 1,620ページ | |

-
- | | | |
|--------|---------------|--------------------------------------|
| 1 書名 | 宮崎県の歴史散歩 | 西都原古墳群の概説
(分布図、鬼の窟資料館の写真が掲載されている) |
| 2 著者 | 宮崎県高等学校社会科研究会 | |
| 3 発行社 | 小川出版社 | |
| 4 発行年 | 昭和51年 | |
| 5 ページ数 | | |

-
- | | | |
|--------|------------|-----------------------------------|
| 1 書名 | 宮崎の文化遺産 | 西都原古墳群の概説
(表紙を含む4葉の写真が掲載されている) |
| 2 著者 | 野口逸郎、柳 宏吉編 | |
| 3 発行社 | 宮崎日日新聞社 | |
| 4 発行年 | 昭和54年 | |
| 5 ページ数 | | |

-
- | | | |
|--------|------------|--|
| 1 書名 | 日向古蹟誌 | 児湯郡三宅村陵墓(135~140頁)の項に、二山陵・事勝塚・雑掌塚・飯盛塚・鬼窟塚・姫塚・船塚・古塚数十基についての記述がある。 |
| 2 著者 | 平部 嶺 南 | |
| 3 発行社 | 歴史図書社 | |
| 4 発行年 | 昭和55年 | |
| 5 ページ数 | A5版 302ページ | |

1 書名	日向郷土事典	古墳群の位置と分布状況と大正の発掘調査及び主な出土品の前説がなされている。
2 著者	松尾 宇一	
3 発行社	歴史図書社	
4 発行年	昭和55年(復刻本)	
5 ページ数		

1 書名	郷土史事典	大正の発掘調査について「日本の学者が初めて古墳を掘った西都原」の小見出しで記述、つづいて「代表的な西都原の家と船の埴輪」の小見出しで出土品について紹介している。
2 著者	石川 恒太郎編	
3 発行社	昌平社	
4 発行年	昭和55年	
5 ページ数	187ページ	

1 書名	日向の遺跡遺物と傳承	西都原古墳群の特色と、男狭穂塚・女狭穂塚・鬼の窟・飯盛塚等について説明がなされている。
2 著者	日高 重孝	
3 発行社	日向文庫刊行会	
4 発行年	昭和57年(復刻版)	
5 ページ数		

1 書名	宮崎県大百科事典	<ul style="list-style-type: none"> ・西都原の位置・地形、古墳の分布等の状況(川中一巖) ・西都原169号、171号、265号墳について(日高正晴) ・西都原古墳群について(日高正晴) ・西都原古墳群の発掘調査(日高正晴) ・西都原資料館(富永嘉久) 以上の事項が取りあげられ説明が加えられている。
2 著者	宮崎日日新聞社	
3 発行社	同上	
4 発行年	昭和58年	
5 ページ数		

イ 県外出版社による出版物

1 書名	日向国史 上巻	可愛山陵の所在地の一説として伝承地の男狭穂塚・女狭穂塚を紹介しているが、形態が応仁・仁徳諸帝のころの型式に類しているので果たしてこれが神代の山陵なるか否かについてはいろいろ研究を重ねた上、慎重に決めなくてはならないと述べている。
2 著者	喜田貞吉	つぎに「児湯郡の古墳墓」の中で主な古墳群について紹介している。
3 発行社	史誌出版者	
4 発行年	昭和4年	
5 ページ数	856ページ	
1 書名	上代の日向延岡	大正2年県から要請のあった鳥居龍蔵は古墳群中7基の古墳を発掘している。その中で、35号墳の墳頂に営まれていた経塚も調査しているが、本書はその折出土した陶製経筒と宋銭についてふれ、他の出土例と比較・検討を行っている。なお、35号墳の粘土槨と経筒、宋銭の写真も掲載されている。
2 著者	鳥居龍蔵	
3 発行社	鳥居人類学研究所	
4 発行年	昭和10年	
5 ページ数	198ページ	
1 書名	日向古代史	第二編 上古史 第七章 日向の古墳墓 第二節 一、児湯郡の古墳墓 西都原古墳群の概略と隣県古墳群の比較説明(413～439頁)がなされている。
2 著者	喜田貞吉	
3 発行社	東洋堂	
4 発行年	昭和18年	
5 ページ数	A5版 594ページ	
1 書名	日本土代の甲冑	第210号墳(現171号)から出土している衝角付冑及び短甲形埴輪について紹介、さらに該墳が方墳であるが、後期のものではなく古墳時代の最盛期に築造されたものであることも述べている。
2 著者	末永雅雄	つぎに111号墳(現170号)出土の短甲類甲冑甲について記述がある。
3 発行社	創元社	
4 発行年	昭和19年	
5 ページ数	411 その他図版ページ	

1 書名	日本考古学講座 5 古墳文化	江上波夫が騎馬民族の上陸地点を西都原と推定されているが、西都原古墳群は南鮮古墳と副葬品および外形などから同時代・同民族の墓制とは認められない。
2 著者	中川成夫	日向の前方後円墳の示す古墳文化は、この地方が古い伝統の保存に好適な場所—後進性・保守性の強いところ—に古い墓制が永く続いていたことが外形・副葬品および内部構造からも説かれているが結論は今後にまちたいとあり、また、舟形埴輪が上代舟葬説の有力な根拠であるとして後藤守一の説を紹介している。
3 発行社	河出書房	
4 発行年	昭和31年	
5 ページ数	4ページ	

1 書名	図説 日本文化史大系 縄文・弥生・古墳時代	古墳文化の中で住居の階級差のあらわれとして豪族の邸宅や、村の特殊な建築の形を写してつくられたものとして子持ち家形埴輪が取りあげられている。写真の解説の一部に「大室屋と呼ばれた上代の宴会場はこういうものであったのであろうか」とある。
2 著者	児玉幸多編	このほか、鬼の窟の古墳の全景や石室内部の写真、その解説や舟形埴輪が紹介されている。
3 発行社	小学館	
4 発行年	昭和31年	
5 ページ数		

1 書名	古墳とその時代(→) 古代史研究 第三集	古墳の編年研究の中で前方後円墳の一形式として柄鏡式をとりあげその図として91号墳が掲載されている。
2 著者	古代史談話会 代表 坂本太郎	また、方墳では、171号墳が紹介され、その編年として6世紀末比定に反対し出土品からみて西暦4、5世紀時代としている。
3 発行社	朝倉書店	その他、粘土棺・礫床について、西都原古墳群の例が紹介されている。
4 発行年	昭和33年	
5 ページ数	257ページ	

1 書名	図解考古学辞典	小林行雄の記述で特色について述べ、古墳群全体の編年として5～6世紀のころ、かなりながい期間にわたって成立したものであろうとしている。
2 著者	水野清一、小林行雄 編	
3 発行社	創光社	
4 発行年	昭和34年	
5 ページ数	1,056ページ	

-
- | | | |
|--------|--------------|---|
| 1 書名 | 世界考古学大系3 日本Ⅲ | 「前方後円墳の変遷」の中で西都原古墳群の分布図を掲載し、前方後円墳の変遷がかならずしも畿内のような変遷をたどらなかった地方の例として、本古墳群の柄鏡形の前方後円墳が5世紀にさかんにつくられた好例地として説明されている。
その他子持家形はにわ等についても記述がある。 |
| 2 著者 | 小林行雄編 | |
| 3 発行社 | 平凡社 | |
| 4 発行年 | 昭和34年 | |
| 5 ページ数 | 172ページ、図版 | |

-
- | | | |
|--------|---------------------|--|
| 1 書名 | 風土記日本
第1巻 九州・沖縄編 | 「日向の古墳文化」の中で「西都原古墳群」の小見出しがあり、日向古墳の成立を歴史的視野からとらえ、その代表的な古墳群が西都原であると述べ5世紀における日向の古墳文化の繁栄を示すものとしている。
また、日向の建国神話は古い古墳にちなんだ天降信仰が土地の伝承を皇室とむすびつけようとする地方民の心の動きが後世に加わり日向の地が重要な地位をしめるようになったと考えられないこともないとしている。 |
| 2 著者 | 下中邦彦編 | |
| 3 発行社 | 平凡社 | |
| 4 発行年 | 昭和35年 | |
| 5 ページ数 | 336ページ | |

-
- | | | |
|--------|---------|---|
| 1 書名 | 日本古墳の研究 | 第三章 古墳のかたの中で「丘陵台地上における立地」として西都原古墳群・新田原古墳・茶臼原古墳群等がその代表的な例としてあげられている。 |
| 2 著者 | 斉藤忠 | |
| 3 発行社 | 吉川弘文館 | |
| 4 発行年 | 昭和36年 | |
| 5 ページ数 | 344ページ | |

-
- | | | |
|--------|------------|--|
| 1 書名 | 国宝事典 | 日向国西都原古墳出土金銅馬具類として東京都五島美術館所蔵の馬具類が、写真(4葉)入りで収録されている。
しかし、この馬具の出土地は西都原ではなく、三納の百塚原から出土したものである。 |
| 2 著者 | 文化財保護委員会 | |
| 3 発行社 | 文化財保護委員会 | |
| 4 発行年 | 昭和36年 | |
| 5 ページ数 | B5版 494ページ | |

-
- | | | |
|--------|----------|----------------------------|
| 1 書名 | 日本考古学辞典 | ・古墳群の位置と分布状況 |
| 2 著者 | 日本考古学協会編 | ・大正の発掘の内容 |
| 3 発行社 | 東京堂出版 | ・男狭穂塚・女狭穂塚・鬼の窟等について記述している。 |
| 4 発行年 | 昭和37年 | |
| 5 ページ数 | 652ページ | |

-
- | | | |
|--------|---------|---|
| 1 書名 | 日本の発掘 | 「西都原古墳群の総合調査」と標題をかかげ、大正の発掘について詳細に述べている。 |
| 2 著者 | 斉藤 忠 | |
| 3 発行社 | 東京大学出版会 | |
| 4 発行年 | 昭和38年 | |
| 5 ページ数 | 208ページ | |

-
- | | | |
|--------|--------------------------|---|
| 1 書名 | 近畿古文化論攷 前方後円墳における築造企画の展開 | 前方後円墳の型式推移を計測値の比率によって論考しているがこの中で202号、226号、46号、174号等が取りあげられている。分類としてA群に分類され、外形上古い古墳となっている。 |
| 2 著者 | 上田宏範 | |
| 3 発行社 | 橿原考古学研究所編
吉川弘文館 | |
| 4 発行年 | 昭和38年 | |
| 5 ページ数 | | |

-
- | | | |
|--------|------------------|--------------------------|
| 1 書名 | 日本の歴史
神話から歴史へ | 舟形はにわ、子持家形はにわについての記述がある。 |
| 2 著者 | 井上光貞 | |
| 3 発行社 | 中央公論社 | |
| 4 発行年 | 昭和40年 | |
| 5 ページ数 | 528ページ | |

-
- | | | |
|--------|------------|-------------------|
| 1 書名 | 日本考古学図鑑 | ・西都原古墳群の発掘と浜田耕作博士 |
| 2 著者 | 齊藤 忠 | ・埴輪家屋 |
| 3 発行社 | 吉川弘文館 | ・西都市の地下式墳 |
| 4 発行年 | 昭和40年 | 以上3項目について記載がある。 |
| 5 ページ数 | B5版 176ページ | |

-
- | | | |
|--------|---------------------|---|
| 1 書名 | 日本の考古学Ⅳ 古墳時代上
九州 | 畿内型古墳の拡充として他の日向の古墳群とともに取りあげられている。 |
| 2 著者 | 小田 富士雄 | この中に日向諸県郡諸井の女髪長姫が応神13年に召され、仁徳の妃となっていることはこのころに日向と大和国家の統属関係が成立していたらしいと推定され、日向に畿内型古墳が拡充される時期と符合していると述べている。 |
| 3 発行社 | 河出書房 | |
| 4 発行年 | 昭和41年 | |
| 5 ページ数 | 61ページ | ❖西都原古墳群の分布図が掲載されている。(138頁) |

-
- | | | |
|--------|---------------------|--|
| 1 書名 | 日本原始美術4
埴輪・鏡・玉・剣 | はにわ子持家・はにわ船について解説 |
| 2 著者 | 三木文雄 | 一族郎党をやしなつた5世紀の地方豪族の屋敷をこんな形のはにわにうつしたものとみられるとあり船形埴輪は板をはぎ付きあわせてつくつた構造船をうつしたはにわであるとしている。 |
| 3 発行社 | 講談社 | |
| 4 発行年 | 昭和41年 | |
| 5 ページ数 | 196ページ | |

-
- | | | |
|--------|--------------------------|---|
| 1 書名 | 日本の考古学Ⅴ 古墳時代下
住居および建築 | 「宮崎県西都原古墳群出土の中央に竪穴とおもわせる入母屋造の屋根を地面にふせた建物があり、その両妻側に切妻造の建物が、平側には入母屋造の建物が付説されている家形埴輪は、先にのべた家屋文鏡や環頭大刀をかざる竪穴様建物と同じ性格をもつものとして注目される。この竪穴様の建物は、集会場のごとき集落内の特殊な用途の大形建築とみることができるとともに、送葬儀礼にともなう喪屋のごとき建物とみなすこともできる。」とあり、子持家形埴輪の構造とその家の性格について述べている。 |
| 2 著者 | 喜谷美宣 | |
| 3 発行社 | 河出書房 | |
| 4 発行年 | 昭和41年 | |
| 5 ページ数 | 459ページ | |

1 書名	日本の美術11 はにわ	「子持ち家はにわ」の紹介で新旧両様式をかねそなえた地方の豪荘な旧家の邸宅を思わせるとしている。
2 著者	三木文雄	また「舟はにわ」の中で構造船として、両舷に櫓でその突起が六つずつならび大海を航行できるりっぱなつくりの舟はにわで、わが国のような海にかこまれた島国ではくりぬきの独木舟にたよった時代は早くすぎて板をはりあわせてつくるめざましい発達が生じられるとある。
3 発行社	至文堂	その他の器財はにわについても記述されている。
4 発行年	昭和42年	
5 ページ数	114ページ	

1 書名	明治百年 宮崎県のあゆみ	見出し「古墳発掘(上)」「古墳発掘(下)」
2 著者	毎日新聞社	大正の西都原古墳群の発掘調査について逸話を中心に記述してある。
3 発行社	毎日新聞社	
4 発行年	昭和43年	
5 ページ数	226ページ	

1 書名	考古学ジャーナル 西都原古墳 群に「風土記の丘」建設	<ul style="list-style-type: none"> ・西都古墳群の紹介 ・大正の発掘調査について ・風土記の丘計画について ・西都原古墳群の風土記の丘建設について
2 著者	岡田茂弘	以上の記載がある。
3 発行社	ニューサイエンス社	
4 発行年	昭和43年	
5 ページ数		

1 書名	古墳の発掘	大正の発掘調査の調査及びその報告書についての感想が中心である。
2 著者	森浩一	
3 発行社	中央公論社	
4 発行年	昭和44年	
5 ページ数		

1 書名	日本文化の歴史2 古墳と神々	船と航海術の発達（石井謙治）の中で復材刳船として西都原出土の舟形埴輪について述べている。
2 著者	編集 増田精一、岡本太郎	西都原や法華寺出土の舟形埴輪は古墳時代の大型船と判断され二材以上の刳船部材を接合する大型刳船でいわゆる復材刳船であるとしている。
3 発行社	学研	
4 発行年	昭和44年	
5 ページ数	213ページ	

1 書名	原色日本の美術1 原始美術	埴輪子持家、埴輪船の紹介
2 著者	斉藤 忠 吉川逸治	子持家についてはその特色について述べ、地方豪族の邸宅をかたどったものと思われるとしている（村井崑雄）
3 発行社	小学館	埴輪船についてはその特徴について記述し、西都原古墳群中もっとも大きい男狭穂塚の外方近くにある飯盛塚古墳から、家・甲・胃および楯や鞆などの埴輪とともに出土したもので古墳時代中期の船の姿を知るに役立つとある（元木文雄）
4 発行年	昭和45年	
5 ページ数	238ページ	

1 書名	沈黙の世界史11 日本	「古墳の年代」の中で「大正初頭の画期的調査」という見出しをつけ大正の発掘をくわしく述べている。また、歴史的には研究者相互の調査結果が統一的に総合されていないと論評し、その相互関係を体系づけるためには昭和に入ってからあらゆる角度からの研究の成熟を待たねばならなかったとある。
2 著者	八幡一郎	
3 発行社	新潮社	
4 発行年	昭和45年	
5 ページ数	320ページ	

1 書名	新版 考古学講座5 原始文化(下) 住居と集落	西都原110号墳出土の家形埴輪、5世紀代の地方豪族の家屋と解するよりは、中心の入母屋造の喪屋に切妻造と入母屋造の必要家屋を付設した殯宮で、形象化の過程で堂々たる大家屋となったものとみられようとする。
2 著者	小出義治	
3 発行社	雄山閣	
4 発行年	昭和45年	
5 ページ数		

1 書名	新版 考古学講座 5 原始文化(下) 埴輪、石人石馬	子持家形埴輪について
2 著者	村井 崑雄	「宮崎県西都原古墳出土のは、中央に竪穴式の入母屋造の一棟をおき、両妻には小形の切妻造、両平には小型の入母屋造りの家をそれぞれ配した豪華なもので子持ちの家などとも呼ばれ、地方豪族の邸宅と考えられている。とのべている。
3 発行社	雄山閣	
4 発行年	昭和45年	また、器財埴輪として眉庇付冑に肩甲、短甲をつけ草摺までをセットしていた埴輪が、西都原古墳から出土しているとおる。
5 ページ数		

1 書名	古代の日本3 九州	○畿内型古墳の伝播(小田富士雄)
2 著者	鏡山 猛、田村円澄編	西都原2号墳について出土品等と紹介されている。
3 発行社	角川書店	○熊襲・隼人のクニ(乙益重隆)
4 発行年	昭和45年	日向の高塚古墳の中で「とくに圧巻をなすのは一ツ瀬川流域の西都原古墳群であろう。最大長径219メートルとを有する男狭穂塚と全長178メートルの女狭穂塚を中心に大小約300基の古墳群があり、なかには地下式横穴も併存する。」とある。
5 ページ数	365ページ	

1 書名	隼人と大和政権	隼人を支配する県制の中で「子湯県」の紹介でその中心を和名抄に出る三宅郷に比定し、この県の中心的な位置に立つ古墳が西都原の男狭穂塚、女狭穂の両古墳であることはいうまでもないと述べている。
2 著者	井上 辰雄	
3 発行社	学生社	
4 発行年	昭和49年	
5 ページ数	209ページ	

1 書名	日本考古学史	「発掘と研究」の章で「西都原古墳群の発掘」と題し大正の発掘調査について紹介している。
2 著者	斉藤 忠	二・三の論評のあとに大正の初頭、長期間にわたって東京や京都の歴史学者や考古学者に依拠して行なった発掘はその後の古墳研究に大きな刺激をもたらしたことはいうまでもないことであると論じている。
3 発行社	吉川弘文館	
4 発行年	昭和49年	
5 ページ数	349ページ	

1 書名	古代史発掘7 埴輪と石の造形	「土と石像の記憶」(村井崑雄)の中で埴輪について南九州では宮崎県の西都原古墳群から他に類をみない構造の家形埴輪が船の埴輪などとともに出土しており古くから知られている。このことから5世紀代に早くも九州南部において埴輪の製作がおこなわれたことがわかると述べている。
2 著者	村井崑雄編	
3 発行社	講談社	
4 発行年	昭和49年	
5 ページ数	168ページ	
1 書名	日本古代文化の探求 船	舟形はにわから古代の船を推定した内容である。独木舟と見るべき船体がありその上に両端が高く反り上った舷側が付せられていてゴンドラ形に似た形態をもっている。……さらに詳しく検討してみると独木舟の上端と舷側板の下端との間に一条の突帯が見え、接合部を補強するため材を外側から取り付けられたものと思われるし、舷の上縁の左右六対の突起はカイの支点とみられオールを用いていたとみてよからうとある。
2 著者	大林太郎編	
3 発行社	社会思想社	
4 発行年	昭和50年	
5 ページ数	269ページ	
1 書名	古代史発掘6 古墳と国家の成立	「甲冑」(小林謙一)の中で西都原地下式横穴4号出土の短甲についてえびの市小木原や島之内出土のものとともに甲冑の変せん(変せん)の資料として取りあげられている。
2 著者	小野山 節編	
3 発行社	講談社	
4 発行年	昭和50年	
5 ページ数	164ページ	
1 書名	古墳の航空大観	1. 本文編91番に男狭穂塚、女狭穂塚古墳が陵墓参考地として記述され、92番には西都原古墳群の前方後円墳が解説され屈指の古墳集団とある。
2 著者	末永雅雄	2. 図版編には4ページにわたって航空写真が掲載されている。
3 発行社	学生社	
4 発行年	昭和50年	
5 ページ数	本文455ページ	

-
- | | | |
|--------|--------|---|
| 1 書名 | 熊襲と隼人 | 「大和政権と熊襲」の中で西都原古墳群をとりあげ、男狭穂塚、女狭穂塚の被埋葬者は大和政権と関係の深い人物で日向統治に当たった者の墳墓と考えるべきであろうとしている。 |
| 2 著者 | 井上辰雄 | |
| 3 発行社 | 教育社 | |
| 4 発行年 | 昭和53年 | |
| 5 ページ数 | 258ページ | |

-
- | | | |
|--------|--------------------|---|
| 1 書名 | 別冊 歴史と旅
空から見た古墳 | 男狭穂塚、女狭穂塚、姫塚、鬼の窟、46号付近、100号付近のカラー写真が掲載されている。
また、全国古墳総覧（黛弘道編）の中で西都原古墳群が他の国指定古墳と共に紹介されている。 |
| 2 著者 | 鈴木亨編 | |
| 3 発行社 | 秋田書店 | |
| 4 発行年 | 昭和53年 | |
| 5 ページ数 | 184ページ | |

-
- | | | |
|--------|-------------|---|
| 1 書名 | 日本の古墳（西日本編） | 西都原古墳群について田中茂が
1. 古墳群の位置
2. 大正の発掘調査
3. 古墳群の特色
4. 西都原古墳群の成立と問題点
以上執筆している。 |
| 2 著者 | 森浩一編 | |
| 3 発行社 | 有斐閣 | |
| 4 発行年 | 昭和56年 | |
| 5 ページ数 | A5版 508ページ | |

-
- | | | |
|--------|-----------------------------------|---|
| 1 書名 | 日本古墳文化論 | ゴーランドが明治30年発表した日本のドルメンと埋葬墳のなかに挿図入りで鬼の岩屋を紹介している。 |
| 2 著者 | ウィリアム・ゴーランド
校注 上田宏範
訳者 稲本忠雄 | |
| 3 発行社 | 創元社 | |
| 4 発行年 | （訳本）昭和56年 | |
| 5 ページ数 | | |

-
- | | | |
|--------|------------|---|
| 1 書名 | 古墳辞典 | • 古墳群の位置及び分布の状況 |
| 2 著者 | 大塚初江、小林三郎編 | • 大正時代の調査と主な出土品 |
| 3 発行社 | 東京堂 | • 男狭穂塚・女狭穂塚・地下式4号について |
| 4 発行年 | 昭和58年 | • 編年と古墳群の重要性 |
| 5 ページ数 | 458ページ | 等について述べているが上円下方墳が1基存在するとあるのは執筆者の誤認であろう。 |

-
- | | | |
|--------|--------------------|--------------------------------------|
| 1 書名 | 日本考古学小辞典 | 古墳群の位置と基数、編年、男狭穂、女狭穂の説明、 |
| 2 著者 | 江坂輝弥、芹沢長介
坂詰秀一編 | それに大正の発掘が古墳研究上に一時期を画したとある。
(渋谷忠章) |
| 3 発行社 | ニューサイエンス社 | |
| 4 発行年 | 昭和58年 | |
| 5 ページ数 | 425ページ | |

(3) 古公文書

1 簿冊名 公園名勝旧蹟古墳

2 年代 大正2年

1. 西都原古墳寄附願
3号、22号、23号墳
東立野
坂元ノ上
酒元ノ坂

1 簿冊名 名勝旧蹟古墳

2 年代 大正5～9年

1. 大正6年の西都原発掘調査経過
大5.12.31～大6.1.10
2. 宮崎県西都原古墳調査報告書 大正6年 18頁
原稿及び印刷本
3. 宮崎県史蹟調査報告(第三冊) 大正7年 72頁

1 簿冊名 名勝旧蹟古墳

2 年代 大正10・11年

1. 西都原史蹟研究所無償貸与の件
下穂北村長より県知事へ
県知事より下穂北村長へ
2. 同上敷地寄附の件

1 簿冊名 名勝旧蹟古墳

2 年代 大正13・14年

- 御陵墓参考地内古損木無償下付の件
諸陵頭より県知事 大正4年
松75本

1 簿冊名 名勝旧蹟古墳

2 年代 昭和元～5年

1. 西都原古墳実測調査表 18頁
学務課 大正13年
2. 西都之原史蹟研究所 私下請願書他 6頁
下穂北村長より県知事あて 大正12年
3. 西都原古墳祭協議会 5頁 昭和2年
4. 西都原古墳発掘品に関する件 昭和2年
(東京帝室博物館、東京帝国大学、京都帝国大学)

1 簿冊名 名勝旧蹟古墳

2 年代 昭和7・8年

1. 史跡調査日程 昭和7年(文部省上田囑託)
西都原古墳群

1 簿冊名 名勝旧蹟古墳

2 年代 昭和11年

1. 妻町三宅古墳発掘品処分に関する件
宮崎県より東京帝室博物館へ
帝室博物館より宮崎県へ

1 簿冊名 名勝旧蹟古墳

2 年代 昭和12・13年

1. 土地及立木価格調(国有財産)
東立野、西都原東、丸山、酒元ノ上、須先、国分、
竹脇、鳥子、長田、堂ヶ島、笹貫畑、馬場先、寺崎

1 簿冊名	名勝旧蹟古墳	御陵墓内拝観道新設の件 昭和13年
2 年代	昭和14・15年	県知事より宮内省諸陵へ 古墳所在立木伐採許可願 235号、226号墳

1 簿冊名	名勝旧蹟古墳	1. 西都原古墳群保存施設の件
2 年代	昭和25年	

1 簿冊名	名勝旧蹟古墳	1. 西都原古墳調査 昭和6年
2 年代	昭和25年	(所在地 地目、地積、状態、所有者、現状、由来、徴証、伝説)

1 簿冊名	史跡名勝天然記念物台帳	1. 史跡第1号 西都原古墳群
2 年代		名称 所在地 指定地積 説明

(4) 古文書

-
- | | | |
|-------|-------|-------------------------------------|
| 1 文献名 | 笠狭大略記 | 男狭穂、女狭穂、飯盛塚、雑掌塚等について記述あり
(宮崎神宮蔵) |
| 2 著者 | 児玉實満 | |
| 3 年代 | 文政8年 | |
| 4 冊数 | 1冊 | |

-
- | | | |
|-------|-------------|----------------------|
| 1 文献名 | 日向国笠狭御碕王都論評 | 内容は考証
九州大学に写本がある。 |
| 2 著者 | 富永芳久 | |
| 3 年代 | 天保8年 | |
| 4 冊数 | 1冊 | |

-
- | | | |
|-------|-----------|------------------------------|
| 1 文献名 | 日向国西都原王都論 | 別に日向国笠狭御碕齊殿原王都論がある。
内容は考証 |
| 2 著者 | 浜崎貞敬 | |
| 3 年代 | 天保3年 | |
| 4 冊数 | 2冊 | |

5. 特別史跡西都原古墳群出土品目録

(1) 宮崎県総合博物館収蔵

(県総合博物館収蔵目録より)

番号	品名	出土地	数量	計量	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
1	直刀片	西都市西都原古墳	6		梅原末治	55		
2	鉾	〃	1		〃	72		
3	鉾	〃	1	長32	〃	71		
4	鉄地鍍金靱	〃	1	長3.8				
5	埴輪片	〃	3		(宮崎神宮)	GL23-25		
6	円筒埴輪片	西都市西都原女狭穂塚	2		(〃)	GL40		
7	〃	〃	10		(〃)	GL22-26		
8	埴輪円筒	西都市西都原古墳	5			172		資料館展示
9	木棺片	〃	3			118		〃
10	短甲残片	〃	1			111		〃
11	T L V 鏡	〃	1		(宮崎神宮)	GL13		〃
12	三角縁三神三獣鏡	西都市西都原古墳13号墳	1		(〃)	GL14		〃
13	勾玉、管玉、小玉	〃	1			161		〃
14	切子玉	〃	1			164		〃
15	小玉	〃				165		〃
16	変形文方格規矩鏡	〃	1			5		〃
17	鋸歯文帯方格規矩鏡	〃	1			11		〃
18	須恵器坏	西都市西都原	1	口径12.5 器高3.5	(宮崎神宮)	G135		〃
19	須恵器高坏	〃	1	口径11.8 脚欠	(〃)	G163		
20	須恵器坏	〃	1	口径12.3 器高4.2		262		

(2) 西都原資料館収蔵

(県総合博物館西都原資料館収蔵資料目録より)

番号	品名	出土集地	数量	計測	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
1	土師高坏 脚部残欠	西都市大字三宅 西都原16号墳	1		(西都市)	L32		
2	土師器碗	西都市大字三宅 西都原3号墳	1		(")	L32		
3	須恵器高坏	西都原東立野	1	高 7.7 口径12.0	横山 登	² (45.1.27)		地下式
4	須恵器高坏	"	1	高 7.0 口径12.0	"	3		"
5	須恵器平瓶	"	1		"	6		"
6	須恵器平瓶	?	1		"	⁷ (45.1.27)		地下式 胴部半分欠損
7	須恵器坏	西都市西都原 東立野	1	高 4.0 口径11.6	"	⁴ (45.1.27)		地下式
8	罍	西都市西都原地下式3号	1		(西都市)	L27-4		
9	碗(土師器)	"	1		(")	L27-5		
10	須恵器蓋坏	西都市西都原地下式2号	2		(")	L34		日高正晴調査
11	須恵器平瓶	"	2	高 11.0 口径6.0 胴径14.5	(")	L37	考古学雑誌 43巻4号	S 27.4. 日高正晴調査
12	須恵器坏他	西都市大字三宅 西都原周辺	23		(")	L46		
13	壺	西都市大字三宅 西都原周辺	2		(")	L46		
14	高坏	"	1					
15	坏	"	18					
16	提瓶	"	1					
17	罍	"	1					
18	須恵器高坏	西都市西都原 東立野	1		横山 登	⁵ (45.1.27)		地下式
19	須恵器壺提瓶	西都市西都原周辺	壺 4 提瓶 1		(西都市)	L26		
20	土師器・高坏	西都市大字三宅 東立野	1	高 7.5 口径11.5	横山 登 (45.1.27)	1		農作業中に発見

番号	品名	出土集地	数量	計測	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
21	土師器杯・高坏	西都市寺崎	16		沼口 信一 (47.)	26		
22	土師器(壺)	西都市大字三宅 西都原	1		(西都市)	L 27	考古学雑誌 43巻4号	地下式3号S30. 4.10日高調査
23	高 坏	"	1		(")	L 27	"	"
24	碗	"	1		(")	L 27	"	"
25	土師器破片	西都市大字三宅 西都原159号墳	31		(")	L 58		
26	土 器 破 片 (高坏破片)	西都市大字三宅 西都原80号墳	1件		(")	L 81		
27	須 惠 器 坏	西都市寺崎	1		沼口 信一	26		
28	須 惠 器 壺	西都市寺原	1	高45.5 巾35.1 口径17.0	斉藤 忠雄	21		地下約50cmよ り発見
29	須 惠 器 蓋 坏	西都市地下式横穴	4		(西都市)	L 14		
30	須 惠 器 平 瓶	"	1		(")	L 14		
31	須 惠 器 提 瓶	西都市大字三宅 西都原周辺	2		(")	L 20		
32	須惠器高坏蓋付 高坏	"	2		(")	L 21		
33	須 惠 器 罍	"	3		(")	L 22		
34	須 惠 器 平 瓶	"	3		(")	L 24		
35	須 惠 器 蓋 坏	"	2	径11.6 径12.6	(")	L 25		
36	須 惠 器 坏 等	西都市西都原 地下式3号	15		(")	L 27		日高正晴調査
37	坏	"	10		(")	L 27-1		
38	高 坏	"	2		(")	L 27-2		
39	壺(土師器)	"	1		(")	L 27-3		
40	須 惠 器 坏	西都市大字三宅 西都原古墳群	1件			神宮坏11		
41	鉄 鏃	西都市大字三宅東立野 地下式横穴	1	全長13.5 頭部長4.7 巾3.5	(西都市)	L 35		

番号	品名	出土地	数量	計測	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
42	鉄 鏃 (平根尖根)	西都市大字三宅 西都原周辺	8		(西都市)	L 1		
43	鉄 鏃(尖根片 刃型平根)	西都市大字三宅 西都原地下式4号	50		(")	L 64	考古学雑誌 43巻4号	S 31.4.30 日高正晴調査
44	鉄 鏃	西都市大字三宅西都原 地下式3号	20		(")	L 28	考古学雑誌 43巻4号	S 31.4.10 日高正晴調査
45	鉄鏃(平根尖根)	西都市大字三宅西都原 265号墳	57		(")	L 80		T 6 浜田 梅原末治調査
46	鉄鏃(平根式)	"	7		(")	L 80 81		
47	鉄鏃(尖根式)	"	1件		(")	L 80		
48	鉄 鏃 (尖根,柳葉型)	西都市大字三宅西都原 156号墳?	80		(")	L 85		
49	鉄鏃(尖根)	西都市大字三宅西都原 156号墳出土か			(")	L 57		
50	刀 子 片	西都市大字三宅西都原 156号墳出土か	1	10.3 cm	(")	L 57-2		
51	鉄鏃(尖根平根)	西都市大字三宅 西都原周辺	1件		(")	L 41		
52	刀 子 片	西都市大字三宅 西都原周辺	1	全 9 cm 刃 7.8 cm 巾 1.7 cm	(")	L 41-2		
53	直 刀	西都市大字三宅 西都原周辺	10		(")	L 57		
54	直 刀	西都市大字三宅西都原 地下式横穴	1	刃渡 67 cm	(")	L 13		
55	直 刀	西都市大字三宅 西都原周辺	10		(")	L 40		
56	小 刀	"	1件	全長26 cm 巾2.0 cm 茎3.5 cm 刃渡23 cm	(")	L 40-2		直刀の中より 確認
57	直 刀	西都市大字三宅西都原 地下式4号	6		(")	L 67	考古学雑誌 43巻4号	S 31.4.30 日高正晴調査
58	鉄 斧	西都市大字三宅 西都原周辺	1		(")			
59	矛 首	西都市大字三宅西都原 265号墳	1		(")	L 79		
60	短 甲 (横短板鋸留式)	西都市大字三宅 地下式4号	1		(")	L 66-1		
61	短 甲 破 片	西都市大字三宅石貫	1		(")	L 51		S 31.4.30 日高正晴調査
62	短 甲 (横短板革綴式)	西都市大字三宅西都原 地下式4号	1		(")	L 63		S 31.4.30 日高正晴調査

番号	品名	出土集地	数量	計測	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
63	短甲 (横羽板革綴式)	西都市大字三宅西都原 地下式4号	1		(西都市)	L 66-2	考古学雑誌 43巻4号	S 31.4.30 日高正晴調査
64	珠文鏡	"	1		(")	L 61	"	"
65	変形十文字鏡	西都市大字三宅西都原 第265号墳	1	面径 11.5 反り 0.26 厚 0.5				本館より移管
66	変形六獣鏡		1		(西都市)	L 16-3		
67	倣製三神三獣鏡	西都市大字三宅 西都原古墳群13号墳	1					本館より移管 (50.5.6)
68	変形三神三獣鏡		1		(西都市)	L 16		
69	方格規矩文鏡	西都市大字三宅西都原	1					本館より移管 (52.9.1)
70	方格規矩文鏡	西都市	1		(西都市)	L 16-2		
71	鏡板		1					本館より移管 (52.9.1)
72	壺鐙鎖部残片	西都市大字三宅西都原 地下式3号			(西都市)	L 30-2	考古学雑誌 43巻4号	
73	轡	西都市大字三宅西都原 地下式4号	1		(")	L 30		
74	步揺付装身具	"	1件		(")	L 62 (43.3.1)	考古学雑誌 43巻4号	S 31.4.30 日高正晴調査
75	小玉片	西都市西都原か	2		(")	9		
76	金環	西都市大字三宅西都原	6		(")	L 18 (43.3.1)		
77	"	西都市大字三宅東野立 (西都原)	1	径 2.5 内径 1.3	横山 登	7		地下式
78	小玉(ガラス 青・緑・水色)	"	108	経0.54(器大)厚0.32 経0.36(最巾)厚0.2	"	"		本館より移管
79	石帯	"	1		(西都市)	L 17		
80	鏝	西都市大字三宅 西都原周辺	1		(")	L 6		
81	柄頭	"	1		(")	L 52		
82	土錘	西都市大字三宅東立野 (西都原)	1		横山 登	8 (45.1.27)		地下式
83	骨角器	西都市大字三宅 西都原周辺	4		(西都市)	L 2		

番号	品名	出土地	数量	計測	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
84	管玉	西都市大字三宅西都原 地下式4号	16		(西都市)	L 59	考古学雑誌 43巻4号	S 31. 4. 30 日高正晴調査 ガラス 碧玉
85	小玉	"	64		"	L 59	"	"
86	丸玉	"	115		"	L 60	"	"
87	管玉	西都市三宅 西都原	1件		館蔵()			
88	勾玉	"	"		"			
89	切子玉	"	"		"			
90	雲珠	"	1		(")	L 5		本館より移管
91	杏葉(三葉飾)	"	2					本館より移管
92	棺有機物質	西都市大字三宅西都原 第13号墳	1件		(西都市)	L 49		
93	木棺破片	"	1					本館より移管
94	木片 (木棺片か)	西都市大字三宅西都原 地下式横穴	1件		(西都市)	L 29	考古学雑誌 43巻4号	S 30. 4. 10 日高正晴調査
95	粘土柳片	西都市大字三宅西都原 第13号墳	"		(")	L 50		
96	棺床敷礫	"	"		(")	L 48	西都原古墳 調査報告書	
97	木棺片	"	"					本館より移管 (50. 5. 6)
98	象形埴輪残欠 (人物埴輪 手部?)	西都市大字三宅 西都原周辺	3					本館より移管
99	円筒埴輪	"	6					"
100	人骨(骨片)	西都市大字三宅三宅 地下式横穴	1件		(西都市)	L 31		S 30. 4. 10 日高正晴調査
101	人骨(頭骨片)	西都市大字三宅西都原 地下式4号	"		(")	L 65	考古学雑誌 43巻4号	S 31. 4. 30 日高正晴調査
102	人骨(歯)	西都市大字三宅 地下式横穴	24		(")	L 36		S 27. 4 調査
103	人骨(下顎骨)	"	1件		(")	L 38		S 27. 4 調査
104	金環	西都市大字三宅東立野 地下式横穴	2		(")	L 33 (43. 3. 1)	考古学雑誌 43巻4号	S 29. 4 日高正晴調査

(3) 東京国立博物館収蔵

番号	品名	出工地・採集地	数量	計測	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
1	埴輪船	西都市大字西都原 (元、児湯郡西都原 169号)	1	長 100 cm	1933. 7. 6 採集	21498		
2	埴輪子持家	西都市大字三宅 (元、児湯郡妻町 大字三宅字西都原)	1	高 52 cm	1913. 関保之助発掘	34661		
3	埴輪切妻家	〃	3		〃	34662 / 34664		
4	埴輪衝角付冑	〃	1	高 19.9 cm	〃	34665		
5	埴輪眉庇付冑	〃	1	高 18.6 cm	〃	34666		
6	埴輪鎧残片	〃	一括		〃	34667		
7	珠文鏡	〃	1	径 7 cm	〃	34668		
8	銅 釧	〃	1	径 7.5 cm	〃	34669		
9	鉄鎧残片	〃	一括		〃	34670		
10	柳葉式鉄鎌	〃	〃		〃	34671		
11	逆刺式鉄鎌	〃	〃		〃	34672		
12	埴輪残片	〃	〃		〃	34673		

(4) 京都大学考古学研究室収蔵

番号	品名	出工地・採集地	数量	計測	収蔵経緯	登録番号	文献	備考
1	管玉 注①	西都市妻西都原 古墳群 13号墳	16	長 0.6~1.3 径 0.3~0.6	1916 今西竜発掘	1531	文献①	
2	須恵器破片	〃	1		1916 今西竜採集	1531		
3	短甲形埴輪片 注②	西都市妻西都原古 墳群 旧210号墳	10	現高 30.5	1916 浜田耕作発掘	5489	文献② 〃 ③	
4	埴輪破片 注③	〃	80		〃	5489	文献②	

注 ① 碧玉製、濃緑色、1個だけ灰緑色、両面穿孔（旧2号墳）

注 ② (a)三角板革綴短甲の埴輪、背面上部を後補、内面の上部と外面にベンガラを塗る。
(b)草摺、古墳時代Ⅱ期

注 ③ 円筒形・家形・楕形・蓋形の各破片、ベンガラを塗ったものがある。古墳時代Ⅱ期

文献① 内藤虎次郎・今西竜「西都原古墳調査報告」（「宮崎県史蹟調査報告」）3、大正7年）

文献② 浜田耕作・柴田常恵「第二百十号塚」（「宮崎県児湯郡西都原古墳調査報告」大正4年）

文献③ 末永雅雄「日本上代の甲冑」

あ と が き

特別史跡西都原古墳群（西都原風土記の丘）に関する一般手引書としては、宮崎県総合博物館が昭和46年度に出した「資料館概要」（特別史跡西都原古墳群、西都原資料館）がありますが、本書はその資料の他に、西都原古墳群に関する出版物や出土品の目録等を加え、利用しやすいように編集したつもりです。

編集に際して、県文化財保護審議会の寺原俊文、日高正晴の両委員に監修をお願いいたしましたが、この紙面をかり厚くお礼申し上げます。

宮崎県教育委員会文化課

